

むきばんだいせき ゆた もり かこ
妻木晩田遺跡は、豊かな森に囲ま
れて残る、日本で最大級の弥生のム
ラのあとです。やよいじんたちは、それ
らの森から食材や木材等、生活に必
要なものを手に入れてきました。淀
江平野では、森で採れるついでにつく
たカゴが見つっています。

では、弥生の森を散策し、そこで
とれた植物を使ってカゴ作りを体験
してみることにしましょう。



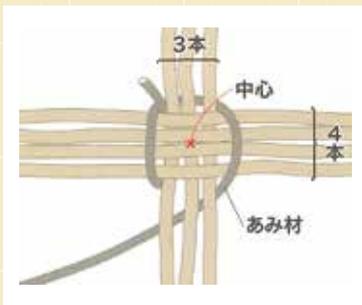
とっとりけん さいりょう
鳥取県の弥生時代の遺跡から見つかったカゴに使われていた材料は、次のうちどれでしょう？
①クズ ②アケビ ③マタタビ ④ツタ ⇒ ()

妻木晩田にある植物を使って、弥生人たちも使ったカゴ作りをしてみましょう。

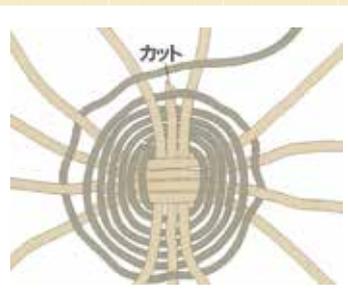
チャレンジしよう

「カゴ作り」に挑戦しよう！

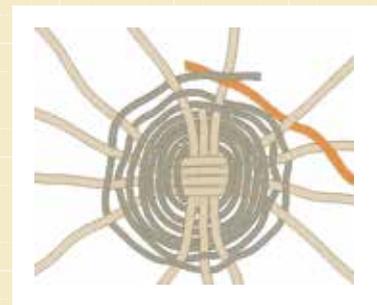
【準備】せんたくばさみ、まき せい ふと
せんたくばさみ、巻じゃく、しん材（太めのしっかりしたつる80cmを7本）、あみ材（細めのやわ
らかそうなつる150cmを4本）



① しん材3本の上に4本をそれぞれの
中央で重ね、図のようにあみ材をま
きます。



② 5回ほど巻いたら、しん材を1本切
り取り、あみ材を交互にかけて編ん
でいきます。



③ しん材を広げながら、すき間が出な
いように編みます。つなぐときは交
差させます。



④ 底面を編み上げたら、しん材を底か
ら立ち上げて、好みの高さまで側面
を編みます。



⑤ 編み終わりは、しん材を隣のしん材
の外側から内側に入れてとめます。



⑥ 好みで、写真のようなもち手を付け
てもいいですね。

豆知識 1 弥生の暮らしとカゴ

植物性のひごやツルで作られたカゴは、土の中でくさることが多く、あまり見つかっていません。

鳥取県内の遺跡では、鳥取市の青谷上寺地遺跡や、米子市の福岡遺跡等で弥生時代のカゴが出土しています。青谷上寺地遺跡のカゴはマタタビ、福岡遺跡から出土したカゴは、アケビのツルで編まれていました。



▲青谷上寺地出土のカゴ
(写真提供・鳥取県埋蔵文化財センター)



▲福岡遺跡（米子市淀江町）から出土した弥生時代のカゴ

豆知識 2 妻木晩田から出土した木の实

妻木晩田遺跡からからは、クリ、モモ、ドングリ、クルミ等、現在でもわたしたちが口にできる木の实が炭になってみついています。熱を加えて食料としていたのでしょう。また、木材や花粉等の分せきから、木の種類として、クリ、カシ、シイ、ケヤキ、ムクノキ、クワ、サクラ、モモ等の森林が広がっていたことも分かっています。



モモの種

豆知識 3 弥生の森の植物利用

弥生時代の人々は、豊かな森から食料を得るだけでなく、その木材を利用して、様々なものを作って生活していました。自分たちの住まいを立てたり、道具を作ったりしていたのです。淀江平野からも木を加工して作られた様々な道具が出土しています。



※みなさんのカゴは、じょうぶに編みあがりましたか？ 今日の「カゴ作り」体験で発見したことやわかったこと等、感想をまとめてみましょう。
